

絨毛性疾患登録実施要項 2016～

個別報告入力要領

治療患者の登録と報告は、毎年、前年1月1日から12月31日の間に治療を開始した患者につき、以下の原則に従って行う。

(1) 絨毛性疾患の登録の対象は、病理組織学的に診断された侵入奇胎、絨毛癌、PSTT、ETTの4つと、組織診断の得られていない奇胎後hCG存続症、臨床的侵入奇胎、臨床的絨毛癌の3つの、合計7疾患を対象とする。胞状奇胎は登録の対象としない。個々の疾患の定義・診断基準は、絨毛性疾患取扱い規約第3版（2011）に基づいて行う。また、治療を行った施設が登録する。

(2) 治療開始日は、診断確定後、治療を開始した年月日とする。

(3) 病理組織学的に診断された侵入奇胎および絨毛癌に関しても、参考として絨毛癌診断スコアをつける。ただしその場合はスコアの点数に関わらず、診断名は病理組織診断を優先する。PSTT、ETT、奇胎後hCG存続症は絨毛癌診断スコアの対象外である。

(4) PSTT、ETTを除くすべての症例に、FIGOスコアを記入する。侵入奇胎、臨床的侵入奇胎、奇胎後hCG存続症は概ねLow risk（6点以下）に含まれ、絨毛癌、臨床的絨毛癌は概ねHigh risk（7点以上）に含まれることが多いが、必ずしもそうならないこともある。国際的なFIGOの診断基準にも対応するため、本スコアは必ず登録する。

(5) 侵入奇胎、臨床的侵入奇胎、奇胎後hCG存続症の治療後、いったん寛解した後、再発した場合は、あらたに絨毛癌または臨床的絨毛癌として新規登録する。

(6) 過大着床部や着床部結節は、取扱い規約において絨毛性疾患として分類されないため、登録の対象としない。

【登録コード】

code No

1	新規報告患者（追加したい患者）
2	既報告患者の内容変更
3	既報告患者の削除

【患者No.】

自動表示（TD20XX-から始まる番号）

【年齢】

治療開始時点での満年齢を入力する。

【診断名】

1) 病理組織診断あり

code No

1-1	侵入胞状奇胎（侵入奇胎）
1-2	絨毛癌
1-3	PSTT（胎盤部トロホプラスト腫瘍）
1-4	ETT（類上皮性トロホプラスト腫瘍）

2) 病理組織診断なし（存続絨毛症）

code No

2-1	奇胎後hCG存続症
2-2	臨床的侵入奇胎（絨毛癌診断スコア0～4点）
2-3	臨床的絨毛癌（絨毛癌診断スコア5点以上）

(1) 病理組織診断ありとは、子宮原発病巣や転移病巣の手術検体の病理組織学的診断により侵入奇胎、絨毛癌、PSTT、ETTと診断された場合である。PSTTとETTは、病理組織診断で確定したもののみを登録する。

(2) 病理組織診断なし（存続絨毛症）とは、胞状奇胎・分娩・流産などあらゆる妊娠の終了後、hCG値や画像検査（超音波・CT・MRI）などにより、侵入奇胎や絨毛癌の続発が臨床的に疑われるが、手術をおこなわず化学療法のみで治療を行うため、病巣の組織診断が得られない場合である。この場合は以下に記す方法で臨床的に3つに分類して登録する。

(3) 臨床的に病巣の存在が確認される場合は、絨毛癌診断スコアによって臨床的侵入奇胎または臨床的絨毛癌と診断する。胞状奇胎後にhCG値の下降が不良で臨床的侵入奇胎を疑うが、画像検査で病巣が検出できない場合は、奇胎後hCG存続症と診断し、この場合は絨毛癌診断スコアを記入しない。

【治療開始年月日】

絨毛性疾患の診断後に、手術、化学療法、放射線療法がはじめて行われた年月日を西暦で入力する。

絨毛性疾患登録実施要項 2016～

【絨毛癌診断スコア】

下記の1～7のすべての項目について、当てはまるものを選択する。診断スコアは自動計算される。

病理組織学的に診断された侵入奇胎および絨毛癌に関しても、参考として絨毛癌診断スコアをつける。ただしPSTT、ETTは絨毛癌診断スコアの対象外である。

1. 先行妊娠

胞状奇胎（0点）
流産（3点）
正期産（5点）

2. 潜伏期

6か月未満（0点）
6か月～3年未満（4点）
3年以上（5点）

3. 原発病巣

子宮体部・子宮傍結合織・腔（0点）
卵管・卵巢（3点）
子宮頸部（4点）
骨盤外（5点）

4. 転移部位

なし・肺・骨盤内（0点）
骨盤外（肺を除く）（5点）

5. 肺転移巣

	0点	3点	4点	5点
直径	20mm未満	20～30mm 未満		30mm以上
大小不同	なし		あり	
個数	20個以下			21個以上

6. hCG値（mIU/ml）

10⁶未満（0点）
10⁶～10⁷未満（1点）
10⁷以上（3点）

7. 基礎体温（月経周期）

不規則・一相性（不規則）（0点）
二相性（整調）（5点）

（注1）先行妊娠は、直前の妊娠とする。

（注2）潜伏期は、先行妊娠の終了から診断までの期間とする。

（注3）肺転移巣の大小不同性は、肺陰影の大小に直径1cm以上の差がある場合に大小不同とする。なお、肺転移巣の診断（直径、大小不同性、個数）は、今日ではCT画像で行われることが多いが、本診断スコアでの評価は胸部X線写真に基づく解析結果に基づいている。

（注4）基礎体温（月経周期）は先行妊娠の終了から診

断までの期間に少なくとも数ヶ月以上続いて基礎体温が2相性を示すか、あるいは規則正しく月経が発来する場合に整調とする。なお、整調でなくともこの間にhCGがカットオフ値以下であることが数回にわたって確認されていれば、BBT2相性を選択し、5点を与える。

（注5）胞状奇胎娩出後、hCGがカットオフ値以下になった後に、新たな妊娠ではなくhCGの再上昇を示す場合には、BBT2相性を選択し、5点を与える。

【FIGOスコア】

下記の8～15のすべての項目について、当てはまるものを選択する。診断スコアは自動計算される。

0～6点の場合はLow risk、7点以上の場合はHigh riskを選択する。

ただしPSTT、ETTはFIGOスコアの対象外である。

8. 年齢

40歳未満（0点）
40歳以上（1点）

9. 先行妊娠

胞状奇胎（0点）
流産（1点）
正期産（2点）

10. 先行妊娠からの期間

4か月未満（0点）
4か月～7か月未満（1点）
7か月～13か月未満（2点）
13か月以上（4点）

11. 治療前血中hCG値（mIU/ml）

10³未満（0点）
10³～10⁴未満（1点）
10⁴～10⁵未満（2点）
10⁵以上（4点）

12. 腫瘍の最大径

3cm未満（0点）
3～5cm未満（1点）
5cm以上（2点）

13. 転移部位

肺（0点）
脾臓・腎臓（1点）
消化管（2点）
肝臓・脳（4点）

14. 転移の数（個）

1～4個（1点）
5～8個（2点）
9個以上（4点）

15. 効果不良の既往化学療法

単剤療法（2点）

多剤療法（4点）

（注1）画像検査で病巣の検出できない場合、項目12は0点、転移が検出されない場合、項目13および14は0点、既往化学療法のない場合、項目15は0点となり、それぞれの項目の選択は不要である。

【FIGO進行期分類（FIGO2000）】

すべての症例において、FIGO 2000 stage I期からIV期の該当する進行期を記載する。病巣が検出されない奇胎後hCG存続症の場合は、stage I期とする。

16. FIGO 2000 stage

I期	病巣は子宮に限局
II期	病巣が子宮外に進展、ただし付属器、膣、広靱帯に限局している
III期	肺転移の存在、ただし内性器の病巣の有無は問わない
IV期	その他の部位への転移の存在

3年および5年予後報告入力要領

【治療後の健否】

code No

10	生存（非担癌）
11	生存（担癌）
21	絨毛性疾患による死亡
22	他の癌による死亡
23	癌と直接関係のない死亡
29	死因不明
99	生死不明

（1）治療後満3年、満5年について生存か否かを入力する。

（2）癌による死亡で「絨毛性疾患による死亡」か「他の癌による死亡」か不明のときは「絨毛性疾患による死亡」とする。

（3）死因がはっきりしないが癌による死亡が十分疑われる症例は「絨毛性疾患による死亡」とする（「死因不明」としない）。

【最終生存確認年月日】

code No

1	（西暦年月日入力）
2	不明

（1）最終生存確認年月日を西暦で入力する。

（2）生死不明の患者はその生存を確認した最終年月日を入力する（退院後行方不明の場合は退院日となる）。

（3）死亡した患者は死亡年月日を入力する。その年月日が不明の場合は「不明」を選択する。